

平成24年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	CAP講習会	重点評価 区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	指導室

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成10年度	根拠法令	—
性質区分	講座・育成	実施形態	区単独（委託）
対象者	小学校児童・中学校生徒及び保護者		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施 内容、手段、過去 の改善実績等）	<p>子どもたちがいじめ、誘拐・虐待・性暴力等のさまざまな暴力から、自分を守るための教育プログラム。希望する小・中学校で、児童・生徒への講習会及び大人対象の地域講演会を実施する。講師はNPO団体に依頼している。</p> <p>児童・生徒への講習会では、ロールプレイや話し合い等により対応方法等を学び、大人への講演会では、講習会の説明や子どもからの相談への対応や援助方法等を学ぶ。</p> <p>※CAP 子どもの暴力防止「Child Assault Prevention」の頭文字をとったもの。</p>		

2 施策及び事務事業意図

施策	名称	豊かな心の育成
	意図	社会生活のルールを学び、悩みを解決する中で、心豊かな学校生活を送っている。
事務事業意図	子どもが、いじめや誘拐、虐待等の暴力から自分自身の力で身を守れるようになる。保護者や大人が、子どもへの暴力の予防について理解し、実践できるようになる。	

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	21年度	22年度	23年度
受講者数	児童及び保護者等の講習 受講者の合計	人	目標	6,000	6,500	6,500
			実績	6,838	7,179	7,079
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	21年度	22年度	23年度
実施クラス数（小中学校）	—	件	目標	160	180	180
			実績	207	196	202
実施校数	—	校	目標	73	73	73
			実績	73	73	72
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	21年度	22年度	23年度
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0	0
	その他	千円	0	0	0
一般財源 (a)		千円	7,783	7,491	7,045
支出	直接事業費 (b)	千円	6,973	6,681	7,045
	委託料	千円	6,930	6,650	7,005
	消耗品費	千円	40	28	38
	通信運搬費	千円	3	3	2
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
	職員人件費 (c)	千円	810	810	800
	人件費	千円	810	810	800
		人	0.10	0.10	0.10
	再雇用職員	千円	0	0	0
		人	0.00	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0	0
	調整額 (e)	千円	70	90	90
	減価償却費	千円	0	0	0
		金利	千円	0	0
退職給与引当		千円	70	90	90
(控) コスト対象外		千円	0	0	0
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	7,853	7,581	7,935

4 単位あたりコスト

項目	単位	21年度	22年度	23年度
単位の定義		延べ参加者数		
実績数値 (g)	人	6,838	7,179	7,079
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,138	1,043	995
単位あたりコスト (f/g)	円	1,148	1,056	1,121

平成24年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	CAP講習会	担当部	教育委員会事務局
		担当課	指導室

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>ほぼ全校で実施しているが、児童・生徒の犯罪被害を受け止める保護者対象の講習会の参加者が少ない状況にあった。そのため、参加しやすいように、「葛飾教育の日」の土曜授業のある日に開催するなどの工夫をしてきたが、とりわけ中学校では少ない状況が続いていた。</p>		
今後の方向性	改善	<p>現中学生については、小学校在籍時に「CAP講習会」を受講し、中学校でも、犯罪の被害防止等を目的とした警視庁主催の「セーフティ教室」を受講している。 このため、平成24年度からは、中学校での実施を見直し、小学校だけを対象にして実施している。</p>	
	継続		

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	24年度	25年度	26年度
			目標			
			目標			

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	24年度	25年度	26年度
				目標			
				目標			
				目標			
				目標			

行政評価委員会の意見や予算編成等の結果を踏まえ、年度末に記載し、区民に公表します。

CAPワークショップ資料より抜粋

1. CAP(キャップ)とは

CChild (子ども) **A**Assault (暴力) **P**Prevention (防止)

「子どもへの暴力防止」→子どもがあらゆる暴力から「自分の心と身体を守る」ための方法を学ぶ参加体験型学習プログラムです。

<歴史>

- 1978年 米国オハイオ州コロンバスの強かん救援センターから始まる。
- 1985年 カリフォルニアのCAPトレーナー森田ゆりによって日本に紹介される。
- 1995年 日本でCAPスペシャリスト養成講座が始まる。
- 現在 日本全国で約160のCAPのグループが活動をしている。

2. 子どもワークショップとは

子どもが遭いやすい暴力として「いじめ・誘拐・性暴力」をとりあげ、話し合いや役割劇（ロールプレイ）を通して、何ができるか具体的な方法を学びます。

安心する権利



自信を持つ権利



自由に生きる権利



安心・自信・自由に生きる権利（人権）は誰もが生まれながらに持っています。暴力を受けたり、受けそうになると、この3つの大切な権利が奪われます。

3つの権利が奪われたとき、CAPが提示する選択肢

NO *いやという

GO *その場を離れる

TELL *相談する

CAP保護者向けお知らせより抜粋

CAPとは 「子どもへの暴力防止」という意味です。

いやなことやこわいこと、暴力を受けたとき、『何ができるかな』ということ、ロールプレイ（短い劇）を見ながら、みんなで考えました。

- 劇① 同級生から無理やり かばんを持たされる（高学年は《お金を取られる》）
- 劇② 知らない人にだまされて 連れていかれる
- 劇③ 知っている人から いやなさわり方をされてしまう
- 劇④ 信頼するおとなに相談する

成果指標「受講者数」の内訳

受講者数（小・中学校の合計数）

	21年度	22年度	23年度
子どもワークショップ(児童・生徒数)	6,142	6,373	6,236
大人ワークショップ(人数)	696	806	843
合計	6,838	7,179	7,079

※太枠内・・・「事務事業評価表（基本）」の「1 成果指標の達成状況」に記載の実績。

(内訳)

	21年度	22年度	23年度
小学校	3,811	3,946	3,877
子どもワークショップ(児童数)	3,313	3,391	3,277
大人ワークショップ(人数)	498	555	600
中学校	3,027	3,233	3,202
子どもワークショップ(生徒数)	2,829	2,982	2,959
大人ワークショップ(人数)	198	251	243